

ニコニコ動画の ゲーム実況プレイヤー という私の実現

～日本語学習者の
言語学習史に関する調査から～

中井好男（同志社大学）

JASAL 2017 Annual Conference, KUIS

(Web掲載用簡略版) Saturday, December 16th, 2017





研究協力者（Aさん）

- 香港の日本語学習者
- 台湾の大学に留学（当時3年生）
→ 交換留学生として来日

研究の背景

きっかけ

- 趣味と学習経験についてのスピーチ
- クラス内での印象の変化
- クラスメートとの交友関係の変化

先行研究

学習者オートノミー

- 「自分で自分の学習の理由あるいは目的と内容、方法に関して選択を行い、その選択に基づいた計画を実行し、結果を評価できる能力」(青木, 2005: 773-774)
- 'capacity for intentional use in context of a range of interacting resources toward learning goals' (Palfreyman, 2014: 183)
- 'having authorship of one's actions' and 'having the voice that speaks one's words' (van Lier, 2004: 8)

先行研究

SNS (Facebook) と自己主導型学習 (Nakai, 2016)

- Facebookが場所と時間を超えた学習の場を提供
→過去の経験や将来像を見据えて学習活動を生み出す

L2 motivational self system (Dörnyei, 2009)

- 理想L2自己／義務自己

先行研究

言語学習ヒストリー（LLH：Language Learning History）

- 言語学習を開始してから現在に至るまでの学習過程における経験や意識、考え方の変容を調査

ライフストーリーインタビュー

- 新しい言語の習得は新しいアイデンティティの獲得（Norton, 2000; Pavlenko and Lantolf, 2000）
- 言語とアイデンティティの獲得を促進する学習者オートノミー（中井，印刷中）

調査・分析

研究協力者（Aさん）

半構造化インタビュー

- 2016年7月8日65分
- 2016年7月22日48分
- 学習経験について（なぜ日本語学習を始めたのか…）

ライフストーリーの手法で日本語の学習経験を学習史に

Aさんの言語学習史

①ニコ動で学習開始

- 親友が日本語の塾に通いだした。
- 塾に通う経済的な余裕がなかった。
- ニコニコ動画を見ていた。

②台湾の大学の 日本語学科へ留学

- ニコ動のまとめを台湾人がやっていた。
- 日本語の授業を受けていた。
- 日本人留学生と一度だけ交流した。リアル。

③日本の大学に留学

- 日本語の授業を受けている。
- CGのサークルでイラストレーターとして活躍。
- ニコ動のアイドルに会いに行った。

① ニコ動での学習

ライバル意識
ニコ動への関心



香港

経済的理由

①ニコ動での学習：学習方法



①ニコ動での学習：コンテンツ



初級

言葉が短い

動詞やオノマトペ

ストーリーの説明なし



中級

叫び声が多い

アイテムの説明

テンポがゆっくり



上級

ストーリーが難しい

説明が長い

テンポが速い

①ニコ動での学習：理解するためのツール



コメント
字幕
+
Google翻訳



①ニコ動での学習：リスナー



ゲームの実況を行い、
日本語で発信する。

①ニコ動での学習：生放送

「反省会」を開く

- ・もらったコメントを振り返る
…発音や表現について
- ・ファンと雑談、FBをもらう

理想自己



調整

生放送をする時間を変える
録画のアップで反応を見る

評価

実行



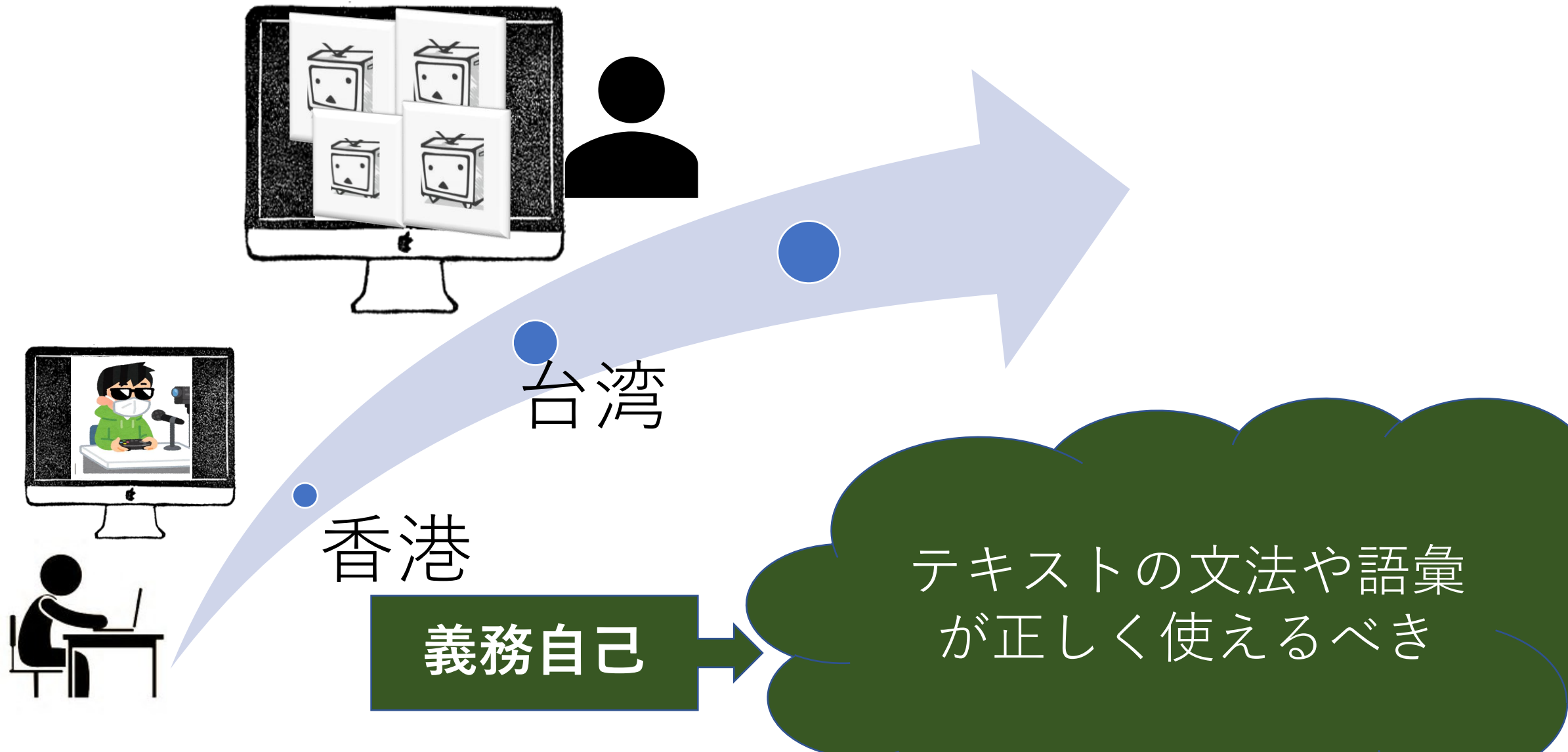
義務自己

リスナーに通じる発音やイントネーションで話すべき

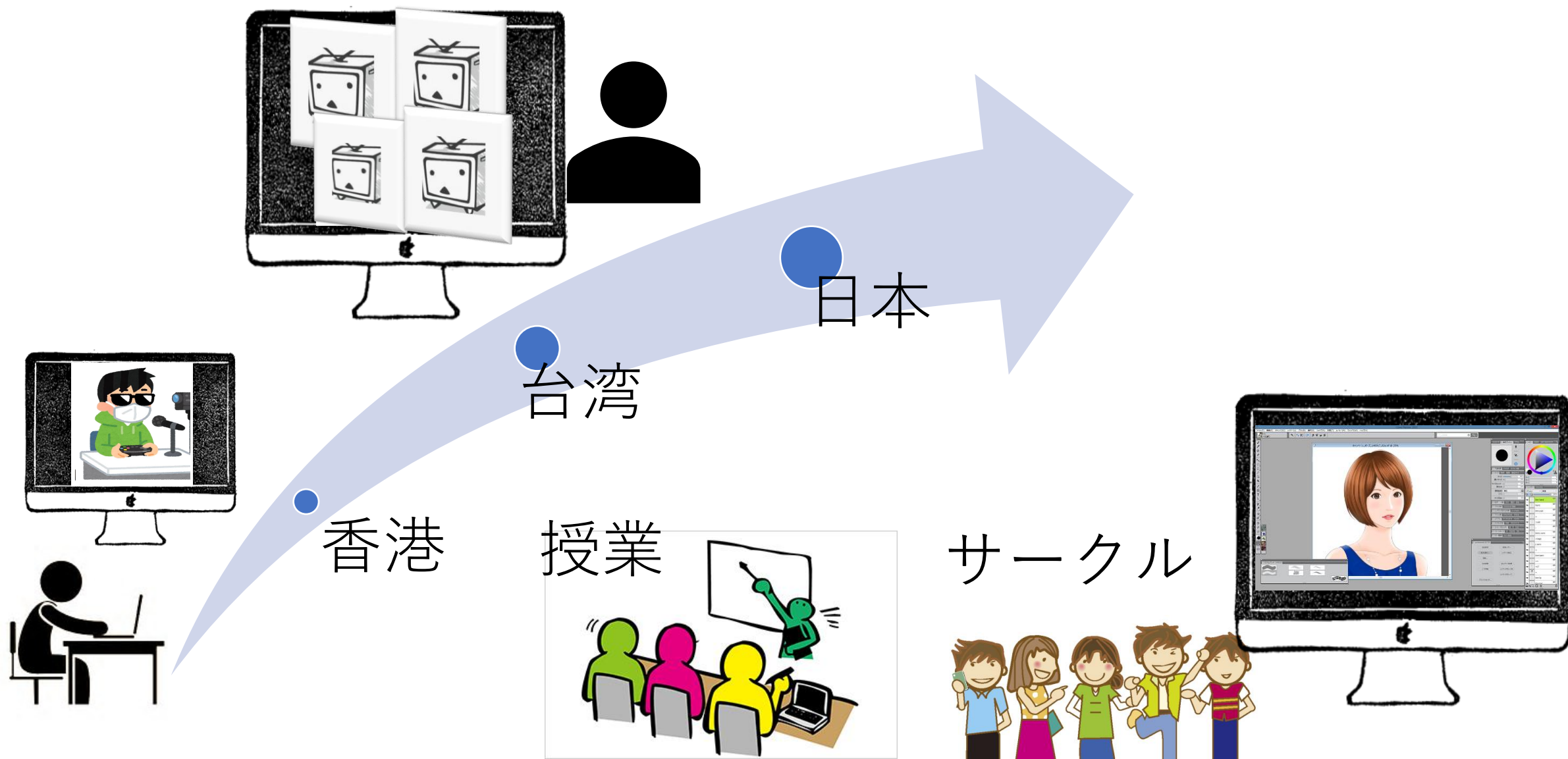
②台湾の大学の日本語学科へ留学



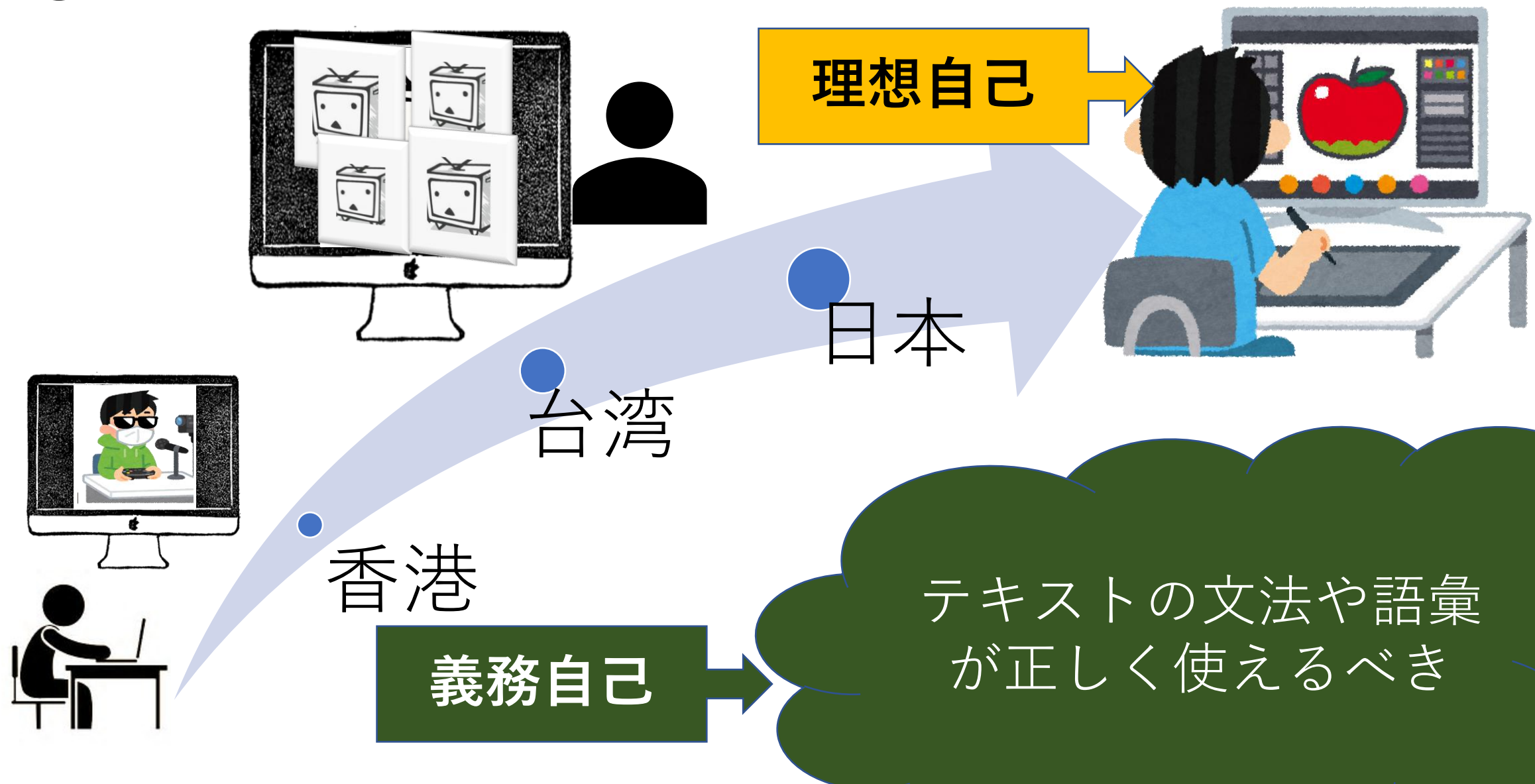
②台湾の大学の日本語学科へ留学



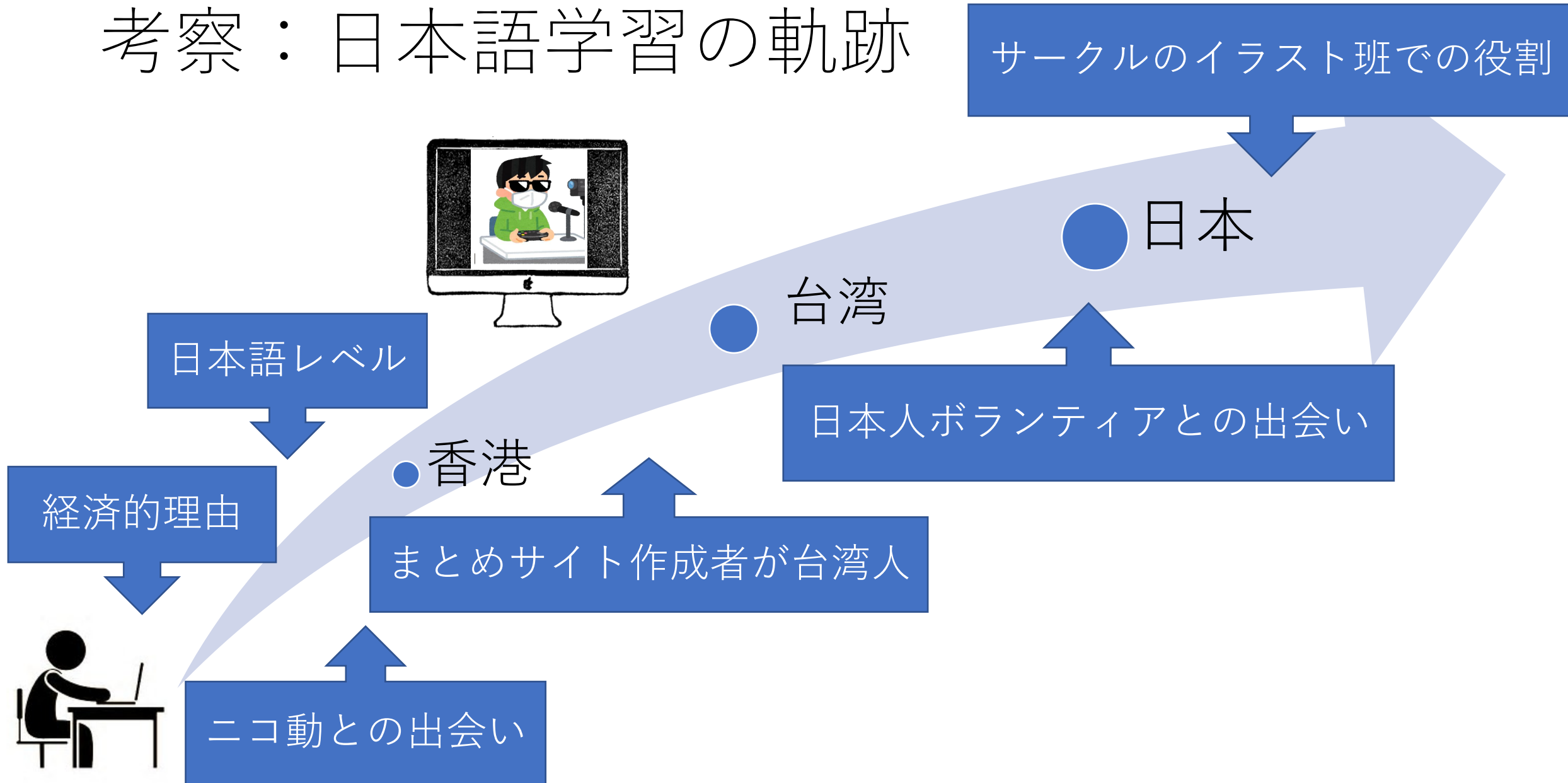
③日本への留学



③ 日本への留学



考察：日本語学習の軌跡



謝辞

本研究はJSPS科研費 JP17K02874の助成を受けたものです。

参考文献

1. Atkinson, R. (2002). The life story interview, In Jaber F. Gubrium & James A. Holstein (Eds.). *Handbook of interview research context & method* (pp. 121-140). Sage Publications.
2. Aoki, N. (2009). Where learner autonomy could fail a second language user: Three-level analysis of social context, In Kjisik, F., Voller, P., Aoki, N. & Nakata, Y. (Eds.). (2009). *Mapping the terrain of learner autonomy: Learning environments, learning communities and identities* (pp.236-261). Tampere: Tampere University Press,
3. Bakhtin, M. M. (1986). *Speech Genres and Other Late Essays*. Translated by Vern W. McGee. Austin, Tx: University of Texas Press.
4. Barnes, D. (1976/1992) *From Communication to Curriculum*. London: Penguin. (Second edition, 1992, Portsmouth, NH: Boynton/Cook-Heinemann.)

参考文献

5. Benson, P. (2011). *Teaching and researching autonomy (2nd ed.)*. London, UK: Longman.
6. Crick, Ruth., Stringher, C., & Ren, K. (Eds.) (2014). *Learning to learn : international perspectives from theory and practice*. Routledge
7. Nakai, Y. (2016). How do learners make use of a space for self-directed learning? Translating the past, understanding the present, and strategizing for the future. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 7(2), 168-181.
8. Palfreyman, D. (2014). The ecology of learner autonomy. In G. Murray (Ed), *Social dimensions of autonomy in language learning* (pp. 175- 191). New York, NY: Palgrave Macmillan.
9. Toohey, K. & Norton, B. (2003). Autonomy as learner agency in sociocultural settings. In D. Palfreyman & R. Smith (Eds.) *Learner autonomy across cultures* (pp.58-72). London: Palgrave, Macmillan.
10. Riley, P. (2007). *Language, Culture and Identity: An Ethnolinguistic Perspective*. London: Continuum.
11. Sade, L. (2014). Autonomy, complexity, and networks of learning. In G. Murray (Ed), *Social dimensions of autonomy in language learning* (pp. 155- 175). New York, NY: Palgrave Macmillan.